

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100307		
法人名	医療法人 智仁会		
事業所名	グループホーム吉原		
所在地	佐賀県佐賀市北川副町大字新郷654-1		
自己評価作成日	平成26年10月7日	評価結果市町村受理日	平成27年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

道路を隔て協力医療機関である佐賀リハビリテーション病院があり、急変時また夜間も迅速に対応ができる体制となっている。また事業所には、看護師が勤務していること、隣接する訪問看護ステーションの看護師も協力体制にあり、健康管理も行え、介護士も小まめな記録を取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、環状通りから外れた、住宅と田園がある静かな環境に位置した、開所して1年の新しい事業所である。建物は、サービス付高齢者向け住宅や在宅介護サービス事業所が併設され、1階部分にホームが開設されている。建物の外周には、街路樹や遊歩道が整備され、入居者は歩行訓練を兼ねた散歩を楽しみにされている。「尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援に取り組みその人の一瞬一瞬に寄り添っていきます」を理念にケア方針を立て、入居者一人ひとりに応じた対応を心掛け支援されている。母体の病院が隣りにあり、また同じ建物に訪問看護事業所もあり、医療面との連携が密に行われている。また、開所し1年目ながら、地域との交流や関わりを活発に行われている。管理者、職員と話し合いを重ね、季節感のある飾りつけや穏やかでゆったりとした対応など、明るく家庭的な雰囲気作りにも努められているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、人格を尊重した生活環境が構築できるように、ホール内に理念を掲げ、出勤した職員で復唱し、できる限り入居者様の声を傾聴するよう努めている。	理念は時間がある時は職員で復唱し、日頃から入居者一人ひとりの尊厳や願いを尊重し寄り添ったケアを提供することに努めている。また、ホールや事務室に理念を掲示し、常に意識するよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を行う際に、自治会長と会話をしたり、月に何度か来所されている民生委員の方やボランティアの方との交流も行っている。	散歩の際は住民と挨拶や言葉を交わしている。地域行事の声掛けをしてもらい、行事の見学や、花植え、川掃除などにも参加や協力をしている。また、ボランティアの訪問もあり地域との交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、事業所の状況や介護保険の制度について説明を行い、地域の方が参加できる行事を選定して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ボランティアの導入や絵手紙教室などの意見を導入し、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回定期的開催している。行事にも参加してもらいホーム内の活動を見て頂いている。会議での提案や、ボランティアなどからの意見も取り入れ、よりよい支援が提供できるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	佐賀中部広域連合へ、困ったことなどは積極的に連絡を行うようにしている。	日頃から相談や研修案内など情報の共有ができる関係が保たれている。ケアサービスの取り組みの相談を行ったりと、協力体制は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、職員の意識を高め、身体拘束ゼロを目指している。現在は、身体拘束の経過を記入し、職員と検討を行っているが、玄関の施錠や身体拘束は実施している。	研修を行い、身体拘束に関しての共通認識を図るよう努めているが、やむを得ず、入口の施錠とベッド柵を使用している。拘束については、家族からの同意を得て、定期的にかンファレンスを開催し、検討を繰り返している。実際に拘束が不要になったケースもある。	今後も、拘束の解除に向けての検討を続けられ、拘束に頼らないケアが行われることに期待したい。また、入口の施錠も、解除が可能な時間帯を検討されるなど、解除に向け検討されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内でマニュアルの作成・勉強会を開催し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度中に勉強会を実施する予定にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間を設け、不安等を聴取するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に声をかけ、意見を出していただき、夢館会議等で検討するようにしている。	家族の面会は頻回にあり、その都度家族に声掛けを行っている。面会の多い家族でも必要時は電話連絡を行っている。家族の意見が出やすいよう環境作りに気を配っている。話の中で出た要望は会議で検討している。しかし、ホームの取り組みなど伝える機会が少ない面も見られる。	家族が参加される行事の後に、家族の集まる時間を作られる等、ホームからの報告や、家族との意見交換を行う機会作りに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を月1回実施し、意見を聞く機会を作っている。	管理者は職員が意見を出しやすいように雰囲気作りにも気を配り、会議では率直な意見や提案が出されている。また、個別での面談を行う機会もある。出された意見や提案は、運営に活かすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を定期的に提供を受け、職員の希望に応じ研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議等に参加させていただき、活動の状況を話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に本人や家族に聴取し、できるかぎり安心した生活が送れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に本人や家族に聴取し、できるかぎり安心した生活が送れるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に本人や家族に聴取し、できるかぎり安心した生活が送れるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族が参加できるイベントを開催し、家族が援助できる場所をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに、外周の散歩に行っていたり、できる限り家族との時間を構築できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の親戚の訪問やお知り合いの訪問、理髪店など以前の生活習慣を継続できるようにしている。	面会時間の制限はなく、家族の都合のつく時間に来所してもらっている。ゆっくり過ごしてもらおう声掛けを行っている。馴染みの場所との関係が継続できるよう、外出は家族や職員対応で行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に洗濯をたたんだり、散歩の声かけをおこなったり、お互いで声をかけていただくように促している。またフロアーで過ごす時間を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、同施設内の通所リハ、病院などにご家族が受診等を行われた際は、面会に行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話から希望や意向を傾聴し、困難な場合は、ご家族から話を聞くように努めている。	日頃より入居者と一対一で話す場面を作るなどし、意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、表情や様子を見たり、家族から情報を得ながら意向の把握に努めている。要望は職員が把握できるように申し送りノートを活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していたサービス事業所からの情報提供、医療機関からの添書、ご家族からの情報により経過を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活時間を把握し、書写を行う時間や塗り絵などを行う時間を自由に使ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のご希望を踏まえ、また医療機関のリハビリスタッフや看護師等に現状を聴取し、現状に応じた計画を作成するようにしている。	本人・家族の要望と、医療関係者や職員の意見を踏まえ、計画作成担当者と受け持ち職員が話し合い介護計画を作成している。よりよいケアを提供するためチェック表を作成している。状態変化時は随時見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、計画作成担当者や管理者と話し合い、計画に生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、必要なサービスの導入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアなどを活用し、地域とのつながりにより楽しみを感じて頂くようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけを聴取し、ご希望であれば当医療機関にかかりつけを移行するようにしている。また訪問診療による定期的な健康管理が行えている。	本人・家族の希望のかかりつけ医受診を支援している。現在は、母体病院の医師がかかりつけ医となり、週1回の往診が行われている。入居者の状態は毎日、医師に報告している。同じ建物の訪問看護事業所との連携もあり、適切な医療を受けられる支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者様の情報を看護師に報告し、早期受診につながるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関に情報提供を行うことや医療機関より情報提供を行っていただいている。またご家族に情報提供を行い、受診時はご家族も立ち会いをしていただくように促している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方を、入居時に説明を行い、医療機関を交え、今後の方針や支援の在り方を検討している。	入居時に家族に重度化された場合や終末期に関するホームの方針を説明している。ホームでは看取りまで支援する方針である。状態の変化した場合は、都度主治医や家族と話し合い、支援の方針を共有している。職員も終末期におけるホームの方針は理解し、チームで取り組む体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時、事故発生時には、緊急連絡網等の活用により、医師や看護師への迅速な連絡や指示を受けられる体制作りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の防災訓練を年2回実施している。11月に夜間想定の実施する予定。また毎回消防署の立ち合いをお願いしている。	年2回消防署立ち合いのもと、避難訓練を実施し、入居者も含めた訓練を実施している。他、防災対策としてマニュアルの作成や、コンセントや家電製品の定期的なチェック、避難袋の準備など行っている。また、母体病院との確実な連携の為、緊急連絡対応者の確認を毎日行っている。しかし、地域との協力体制作りはこれからである。	今後は、入居者のスムーズな避難誘導の為、地域との連携や協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、その方にあった声かけや敬語を使うことにより、誇りを損ねない対応を心がけている。	日頃から言葉掛けに気を配り、申し送りや会議で確認している。入浴や排泄介助は努めて同性で対応している。トイレへの誘導はさりげなく、小さな声で行っている。個人情報事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に声をかけるように努め、できるかぎり気兼ねなく思いを伝えることができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の拒否がある場合は、翌日に移行したり、食事を部屋で摂取したい際などは、本人の意向に沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔や整髪を促し、入浴の際の更衣は入居者様と衣類を選定したりし、おしゃれができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	常に観察と意向を聞き、摂取形態の変更やカロリー調整などを検討している。	摂取カロリーや嚥下についてなど、日頃から栄養士や言語聴覚士への相談を行っている。また、食事形態は入居者の要望を取り入れている。おやつ作りや食事の準備や後片付けなど、入居者ができる範囲で参加してもらい、食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	グループホーム会議を月1回実施し、職員より意見を聞き、栄養士に相談や報告を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時に歯磨き、含嗽を行い、口腔内の清潔に努めている。また必要時に歯科受診を行い、より安心した口腔機能の安定に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。また排泄チェック表を記載し、便秘や排尿間隔の把握に努めている。	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握し時間誘導や声掛けを工夫している。重度の方でも二人介助で支援している。排泄の自立を維持し、気持ちよく生活してもらうよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩で活動を行う場を提供し、便秘の予防に努めている。便秘時は、看護師に相談し、対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週3回の入浴にしているが、汗をかかれた際やご希望があればシャワー浴などの対応を行っている。	入居者の希望で入浴日や、時間の変更も柔軟に対応している。ゆっくり入浴してもらうよう声掛けを行い、足浴等も行っている。重度者は負担軽減のため、リフト浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間も自由で、日中も休息を行いたいときは、ご本人の思いで休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の内服薬は職員に周知が行えるように、掲示を行い、各自学習を行うように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活習慣を考慮し、洗濯を干したり、ご飯のつぎ分けを行ったり、また書写に取り組んだり支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の外出は、希望に応じ対応を行っている。またイベントに参加する際は、法人職員にも手伝ってもらい、外出の支援に取り組んでいる。	日課として、ホーム周囲の遊歩道を散歩している。その他、入居者の希望に応じ職員は外出支援を行っている。イベントに参加する場合は、法人職員の協力を得たり、外出先によっては家族が対応している。外出の希望を伝えられない入居者へは表情などを見ながら促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、ご家族と相談し、個人で管理を行われている入居者様もいる。持ち合わせが無い方については、必要時にご家族に準備をいただくように連絡相談を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞いや年賀状を作成したり、電話は希望に応じ、自由に使用できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温に十分注意し、随時調整を行っている。窓は大きく設計してもらい、外にある街路樹の色づきなども常に観察できるように配慮している。フローアはソファを置き、くつろげる雰囲気を作っている。	リビングは南向きで明るく、入口は壁面には季節感のある飾りつけがなされている。各部屋の窓も大きく設置され、広々とした雰囲気がある。窓ガラスには、プライバシーの配慮と日差し調整のためフィルムを貼付している、換気は24時間の換気設備で調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のフローアでは、一人がけソファもあり、また離れて設置しているソファもあり、思い思いに過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に持ち込みをしていただき、ご家族の協力のもと、くつろげる雰囲気作りや写真等を飾り、居心地良く過ごせる工夫を行っている。	自宅で使い慣れた椅子やテーブルなどを置いたり、写真を飾られている。居室内は好みに応じて自由に配置され、居心地の良い環境作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の持てる力を最大限引き出すように、車椅子も自由に自走できる広さを作り、手すりも多く設置し、歩行も安全に行えるように環境作りに努めている。		